

いのちとりどり輝く九重町宣言

私たちは、このシンポジウムを通じて、九重町の自然、すなわち生物多様性の豊かさが、町の暮らしや経済の豊かさにつながっていることを改めて認識しました。同時に、九重町でも、生物多様性の損失が着実に進んでおり、それを食い止めるために、一刻も早い対応が必要なケースがあることも知りました。

九重町の生物多様性は、自然そのものの力だけでなく、地域の人びとの手が入ることで守られてきました。しかし、過疎高齢化の進展や生活様式の変化などにより、その維持が難しい状態になっています。

先人たちが維持してきた自然を、未来へ伝えることができるかどうか、その瀬戸際に私たちは立たされています。

「千里の道も一歩から」ということわざがあります。どんなに大きな事業でも、まず手近なところから着実に努力を重ねていけば成功するという意味ですが、生物多様性保全にも同じことが言えます。生物多様性保全は、確かに、大きな問題です。だからこそ、無力感や無関心を装うのではなく、一人ひとりが小さな一歩を踏み出すことが大事です。

そのことを基本に、私たちは、まず、次に掲げる3つの取り組みをはじめます。

一つ目は、保全活動の充実です。

九重町では、これまで多くの住民や団体により、生物多様性保全の活動が続けられてきました。これら取り組みのさらなる充実はもちろん、新たな取り組みの創出を進めます。

二つ目は、暮らしの見直しです。

生物多様性の損失は、経済の仕組みや人々の暮らしが大きく変わった昭和30年代ごろから激しくなったと言われます。もちろん、それ以前の暮らしに戻ることはできません。ただ、人と自然、人と人が今よりもっと近かった当時をヒントに、これからの暮らしをつくるのは、町内外を問わず、多くの人にとって魅力的なものとなるはず。そんな、自然と共生する、町の暮らしづくりを進めます。

三つ目は、生物多様性のことを知る取り組みです。

生物多様性を巡っては、認知度が低いという課題があります。住民があらゆる機会を通じて、この問題について、学び、行動する仕組みづくりを進めます。

以上、私たちは、一人ひとりの行動を基本に、各団体、事業者、学校、議会、行政など、あらゆるつながりをつくりながら、人、生きもの、自然、いのちとりどりの未来をめざし、生物多様性保全に向けた新たな取り組みを始めることを宣言します。

2016年12月18日 「生物多様性シンポジウム」参加者一同

参加者代表

九重町長

日野 康志 立会人 野口理佐子

※ この宣言は、「生物多様性シンポジウム」において採択されたものです。
シンポジウムについては117ページをご覧ください。